

2015年6月

第57号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

電源構成を考える

経済産業省が4月28日2030年の電源構成案をまとめ発表した。

東京電力福島第1原子力発電所の事故から4年を経過しやっと辿り着いたといった感じである。

2030年時点での望ましい電源構成、いわゆるエネルギーミックス(案)は東日本大震災前29%だった原子力発電比率を「20%~22%」に引き下げ、10%の再生可能エネルギーを「22%~24%」に倍増し、残りを火力発電などで賄おうとするものである。

電源構成の将来像は、安全性の確保を前提に「安定供給」「経済性」「環境への配慮」のバランスが不可欠である。

現在国内で使用される電力は東日本大震災以降安全への懸念の強まりを受けて90%を火力発電に依存している。原発から火力への回帰は多くの副作用をもたらした。(1)震災前に比べ家庭向けで2割、企業向けで3割電気料金が上昇した(2)石油やLNGの輸入が増加し、エネルギーを国内で調達する「自給率」は2010年の19.9%から12年には先進国で最も低い6.3%まで低下した(3)地球温暖化の原因とされるCO²の排出量も13年度は12億2400万トンと最高を記録した、ことなどである。

電気料金の高止まりは家庭の負担を増大させるだけでなく、日本の企業のコスト負担増に直結し厳しい国際競争に勝ち残って行くことが出来るか不安を残す。また、火力発電中心の海外化石燃料への依存度は10年度の82%から12年度92%に上昇しており2014年の日本の貿易収支赤字は過去最大の約10兆円に膨らんだ。現在は原油安が続いているがこれが反転する可能性もあり、さらに中東の過激派「イスラム国」台頭による地政学的リスクもある。

さらに、コスト上昇を抑えるため全国で35基にも上る石炭火力の建設が計画されているが、石炭火力は二酸化炭素(CO²)の排出が他の燃料よりずばぬけて多く、温暖化の元凶として国際的規制の気運が高まっている。

温暖化ガス排出の削減について日本政府は09年に鳩山由紀夫首相(当時)が「2020年に1990年比25%削減」目標を国際公約に掲げたが震災後これを撤回し「20年に05年比で3.8%削減」に後退させた経緯がある。温暖化対策に消極的だった米中までも自主目標を掲げ世界的に削減気運が高まってきており国益をかけた駆け引きが激しさを増しており避けて通ることが出来ない。

原発稼働については原子力規制委員会の審査を円滑に機能させ、安全性を確認できた原発から地元の合意を得て稼働させることになるが、使用済み核燃料の処理、人材の確保・育成、長期的原発の位置づけなど未解決の問題もある。さらに、電源問題と併せてさまざまな省エネ対策も引き続き大きな課題である。

菜根譚

さわやか に生きる

財産や地位を求めることに汲々としている都会の人間とつき合うよりも、無欲で淡々と生きている山中の老人を友達に持つほうがよい。

豪邸に住む権力者のご機嫌うかがいに行くよりは、あばら家に住む人と親しくするほうがよい。

都会の人間のどうでもいいうわさ話を聞くよりは、木こりや牛飼いの歌を聞いたほうがよい。

現代人の失敗談を批判するよりも、昔の賢人たちの素晴らしい行いについて語り合ったほうがよい。

(前集 155)

苦境 に耐える

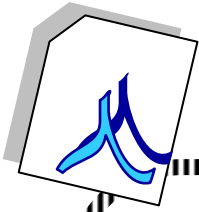
昔の人は、「山をのぼるときは険しい斜面に耐えて登り続け、雪道では、危険な吊り橋に耐えて前に進め」と言ったが、この「耐える」という言葉には深い意味がある。

この世には善人もいれば悪人もいる。その中を渡り歩くのは容易ではない。

しかし、そこであきらめたり逃げたりすれば、山道で藪や穴に落ち込むように、さらに苦しい状態に陥る。

大切なのは、「耐える」力を身につけ、辛抱強く生きていくことだ。

(前集 179 後段)



徳川 光圀 (常陸水戸藩第2代藩主・別名水戸黄門)

寛永5年(1628年)
6月10日

水戸徳川家当主・徳川頼房の三男として家臣・三木之次屋敷で生まれる。光圀の母は谷重則の娘久子。光圀を懐妊したとき父頼房はまだ正室を持っていなかった。

頼房は三木夫妻に久子の墮胎を命じたが密かに出産した。水戸城に入城。

寛永9年(1632年)

光圀、世子に決定。江戸小石川邸で世子教育を受ける。

寛永10年11月

江戸城で家光に拝謁。

寛永11年(1634年)

元服。将軍家光から「光国」の名を賜る。

寛永13年(1636年)

前関白・近衛信尋の娘・尋子(泰姫)と結婚。

承応3年(1654年)

駒込邸に史局を設置。「大日本史」編纂に着手。

明暦3年(1657年)

水戸藩28万石の第二代目の藩主となる。

寛文元年(1661年)

8月19日

寛文2年・寛文3年

笹原水道工事、領内の寺社改革。

寛文5年(1665年)

明の遺臣・朱舜水を招き、儒学と実学を学ぶ。

延宝7年(1679年)

「光圀」に改名。

元禄3年(1690年)

幕府より隠居の許可があり、養嗣子の綱條が水戸藩主を継いだ。

10月14日

元禄7年(1694年)

5代将軍綱吉の命により隠居後初めて江戸に上り、小石川藩邸に入る。11月23日能舞興行の際、重臣藤井紋太夫を殺害。元禄8年1月水戸に帰る。

3月

元禄13年(1700年)

食道がんのため死去。享年73歳。

12月6日

オススメのBOOK



『春雷』

作者 葉室 麟 祥伝社

作者は新聞記者などを経て作家となり、直木賞を受賞している。本書は九州にある架空の藩・羽根藩を舞台に浪人から藩の重役に抜擢された多聞隼人を主人公とする物語である。

羽根藩は莫大な借金を抱え質素儉約に励んで財政再建に取り組み、農民から年貢を容赦なく取立て、その任に当たっていた隼人は鬼隼人と憎まれていた。

隼人は黒菱沼の干拓に着手するが百姓一揆が起き隼人の周辺に2重3重の災難が押し寄せてくる。隼人は大願成就のため大勢の敵と戦ったが・・・。



あなたの脳年齢は？

「物忘れがひどくなった」「ミスが増えた」など加齢に伴った脳（頭）の変化を老化によるものと思い込んでいませんか？

実は、体の中でもっとも寿命が長いのが「脳」です。鍛えれば、脳は120歳まで生きる力を持っています。

年齢を理由に諦める人が多いのですが、新たな刺激を与えると使わなかった脳細胞も活動し始め、実年齢に関係なく成長するので。

脳には1000億個以上の細胞があり、思考系や感情系など、似た働きの細胞同士で大まかに8つの集団を作っています。脳の老化を予防して若返りを促すためには、8つ全ての脳番地をバランスよく鍛えることが重要です。（脳の部位によって思考系、感情系、伝達系、理解系、運動系、聴覚系、視覚系、記憶系の8番地）

中高年以上は、脳を鍛えるのに最適な時期といえます。すでに備わっている思考力や伝達力などを生かすことで、総合的に物事や知識を扱える脳だからです。

人間は一生のうち、脳が持つ潜在能力の数%しか使っていないと言います。それを目覚めさせるものは、脳にとって新鮮な刺激です。



紫陽花が綺麗な季節です。



中高年にもなると、過去の記憶（経験）にとらわれがちで、知りたい欲求なども低下しやすくなります。新鮮な刺激を与えるためには、時に、まるで知らないような気持ちで向き合う事も効果的。

日々のちょっとした挑戦の積み重ねによって、休眠中の脳が動きだし、人生がもっと楽しくなる体験を味わってみましょう。

脳を鍛えるやり方の1つに日記という要素があります。

日記には「明日の楽しみ」を書くと、記憶力の向上に繋がります。脳は、“生きる未来”があるからこそ記憶する機能が備わったともいえるからです。

楽しい未来を想像して脳を鍛えましょう。

※ 因みに50歳前後から食事に気を使い、積極的に講演を聞きに行ったり人に会ったりしていた75歳女性の脳は海馬を含む記憶系脳番地の衰えはなかった。

脳の学校より

思考が単純な人、毎日の行動範囲や活動内容がワンパターンで変化の少ない人、真面目で献身的な人は脳の老化が早いそうです。マンネリな生活では脳が慣れてしまい働きが鈍化するのでしょうか。意識して日常生活に変化を加えて、脳をリフレッシュしましょう。

【編集後記】

5月17日「大阪都構想」が住民投票の結果、僅差で否決された。維新の会代表橋下徹市長は12月までの市長任期を全うした上で政界を引退する意向を明らかにした。

橋下氏は二重行政解消を訴え、大都市の再生・成長を模索し新構想を打ち出した点は評価できる。

長期にわたって「長」の立場にありながら何ら改革の着手もせず、権力にしがみついている御仁も存在する時ある種の清涼感がある。